

2021年3月期 第2四半期

決算説明資料

発想・挑戦・実行で
時代に選ばれる企業へ



目次

1 2021年3月期 第2四半期 決算概要

2 2021年3月期の通期見通し

3 今後の展望

4 会社概要

1

2021年3月期 第2四半期 決算概要

- 上期は新型コロナウイルス感染症の影響で厳しい状況が続く。感染拡大防止と経済活動の段階的再開が進む中、景気持ち直しが見られるものの、当面は緩慢な回復に留まると見込まれる。下期も国内外の感染症の動向や予断を許さない状況が続くと予想。
- 道路建設業界は政府建設投資は底堅く推移しているものの、民間設備投資の減少が依然見込まれ、海外経済の減速や新型コロナウイルス感染症の影響などで、受注環境の不透明感が懸念される状況で推移。



2021年3月期第2四半期の主な取り組み事項

- 1 顧客ターゲットの明確化。
- 2 働きやすく働きがいのある職場環境の構築。
- 3 グループ連携・部門間連携による総合力強化。
- 4 技術力を武器に戦う組織の構築。
- 5 新型コロナウイルス感染防止のための各種施策。

決算概要（連結・単体）

（単位：百万円）

連結	2020年3月期 2Q実績	2021年3月期 2Q実績	対前年増減	増減率	期初予想	進捗率
売上高	41,047	38,969	▲2,078	▲5.1%	105,000	37.1%
売上総利益	3,619	4,584	964	26.7%	—	—
販売費及び一般管理費	3,657	3,620	▲36	▲1.0%	—	—
営業利益	▲38	963	1,001	—	4,500	21.4%
経常利益	39	1,045	1,005	—	4,500	23.2%
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	975	597	▲377	▲38.8%	3,000	19.9%

単体	2020年3月期 2Q実績	2021年3月期 2Q実績	対前年増減	増減率	期初予想	進捗率
売上高	29,008	29,984	976	3.4%	—	—
営業利益	▲665	578	1,243	—	—	—
経常利益	▲508	909	1,418	—	—	—
四半期（当期）純利益	739	690	▲49	▲6.6%	—	—

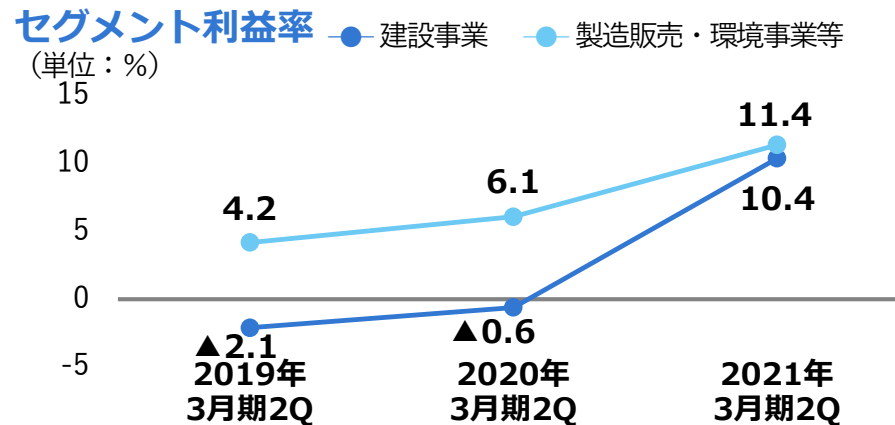
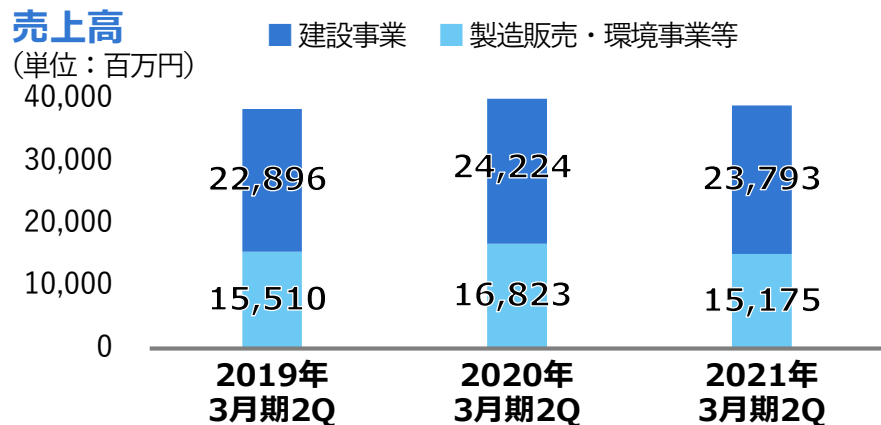
- 連結売上高は概ね計画通り進捗も、前年同期比では5.1%減の38,969百万円。売上高減の主要因は、連結子会社の工事完成期の期ずれ。
- 営業利益は売上高減少や販管費の抑制が微減に留まったにもかかわらず、利益率の改善により前年同期の赤字から黒字転換。
- 四半期純利益については、前年同期の独占禁止法関連損失引当金戻入額がなくなったため、前年同期比で減少。

セグメント別売上高・損益実績 (連結)

(単位：百万円)

売上高	2019年 3月期2Q	2020年 3月期2Q	2021年 3月期2Q	対前年増減	増減率	期初予想	進捗率
建設事業	22,896	24,224	23,793	▲430	▲1.8%	—	—
製造販売・環境事業等	15,510	16,823	15,175	▲1,648	▲9.8%	—	—
売上高合計	38,407	41,047	38,969	▲2,078	▲5.1%	105,000	37.1%

セグメント利益	2019年 3月期2Q	2020年 3月期2Q	2021年 3月期2Q	対前年増減	増減率	期初予想	進捗率
建設事業	▲470	▲138	247	385	—	—	—
製造販売・環境事業等	646	1,032	1,735	702	68.1%	—	—
セグメント利益合計	175	893	1,982	1,088	121.8%	—	—



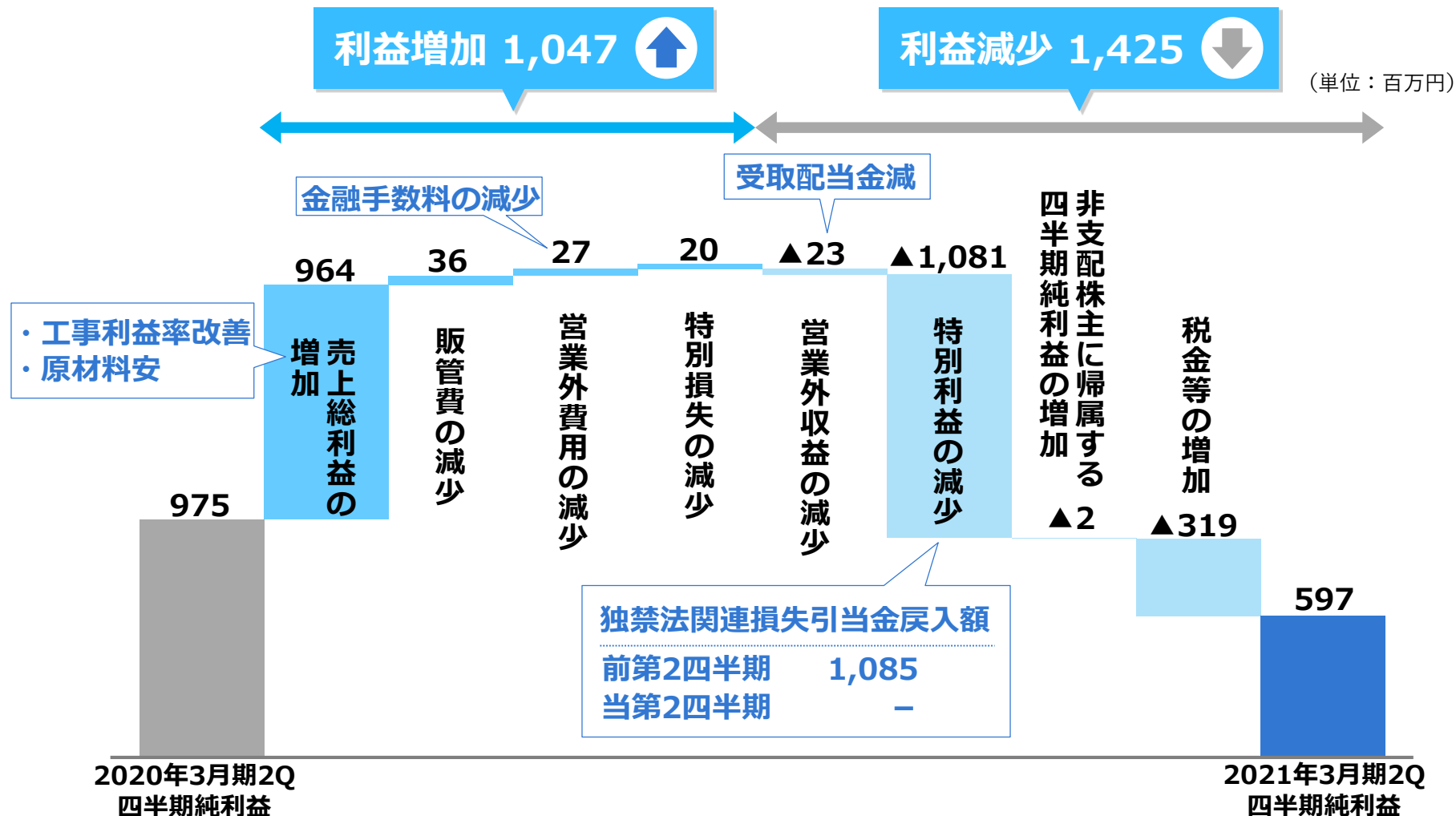
■ 建設事業

①売上高は前期比微減。②セグメント利益は不採算工事案件があったものの、工事全体の利益率改善により大幅に改善。③下期への繰越工事は、520億円弱と潤沢。

■ 製造販売・環境事業等

①売上高は前期比9.8%減。②セグメント利益は原油安による原材料の値下がりにより大幅増。③下期については原油価格の動向に懸念。

四半期純利益の増減要因分析（連結）



■ 【利益増加の主要因】

・ 工事部門の利益率改善、製品部門の原油価格の低下に伴う原材料安などによる売上総利益増加に加え、長短借入金の返済による金融手数料の減少。

■ 【利益減少の主要因】

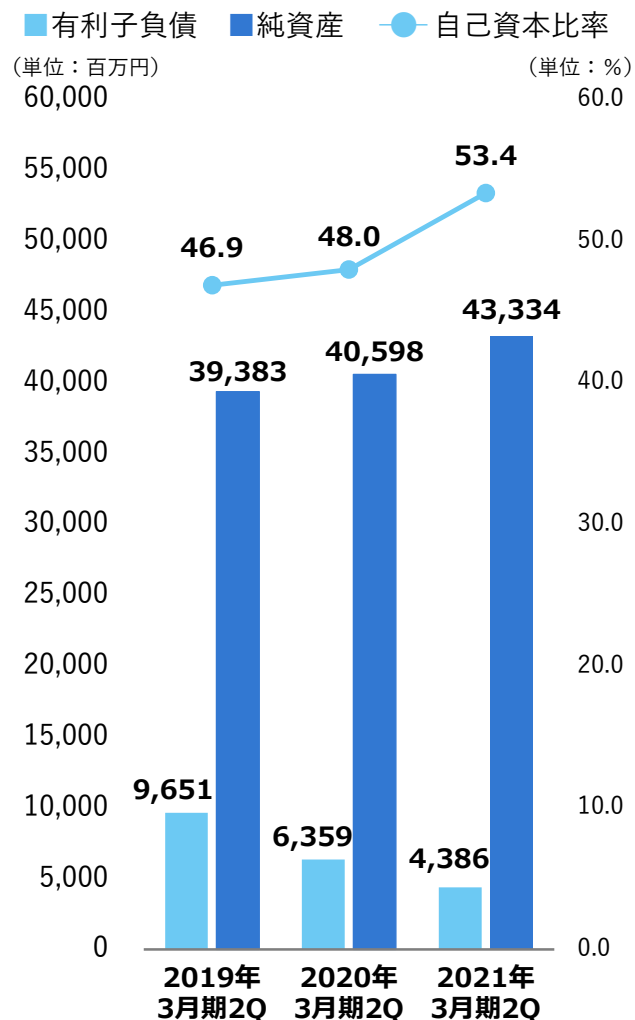
・ 独占禁止法関連損失引当金戻入額がなくなったことによる特別利益の減少。

連結財政状態・連結キャッシュフロー

連結財政状態

(単位：百万円)

	2019年 3月期2Q	2020年 3月期2Q	2021年 3月期2Q	対前年増減
資産合計	81,845	82,242	78,839	▲3,403
負債合計	42,462	41,643	35,505	▲6,138
有利子負債	9,651	6,359	4,386	▲1,973
(短期借入金)	4,087	2,915	2,068	▲847
(長期借入金)	5,360	3,336	2,318	▲1,018
(社債)	204	108	—	▲108
純資産	39,383	40,598	43,334	2,735
自己資本比率	46.9%	48.0%	53.4%	5.4%



連結キャッシュフロー

(単位：百万円)

	2019年 3月期2Q	2020年 3月期2Q	2021年 3月期2Q
営業活動によるCF	1,025	1,469	9,428
投資活動によるCF	▲1,473	▲937	▲866
財務活動によるCF	▲84	▲2,233	▲2,543
現金及び現金同等物の増減額	▲532	▲1,701	6,018
現金及び現金同等物の四半期末残高	21,765	18,718	18,072

- 総資産は現金預金と投資有価証券は前年同期比で増加したが、受取手形・完成工事未収入金等が減少し、前年同期比3,403百万円の減。
- 負債は長短借入金の減少や支払手形・工事未払金の減少で前年同期比6,138百万円の減。

2

2021年3月期の 通期見通し

1 自己株式の取得（総額7億円、上限20万株）の実施

- ▶ 資本効率の向上および柔軟な資本政策の遂行により、株主への一層の利益還元を図る。

2 役員報酬制度の見直し（2020年6月開催の株主総会に付議し、可決）

- ▶ 譲渡制限付株式報酬制度の導入による企業価値向上と連動した報酬制度への移行。

3 増配予定（2021年3月期）

- ▶ 前期の140円から10円増配の150円を予定。

（普通配当120円 創立90周年記念配当30円）

2021年3月期業績予想（連結）

（単位：百万円）

連結	2020年3月期	2021年3月期 （予想）	対前年増減	増減率
売上高	109,123	105,000	▲4,123	▲3.8%
営業利益	4,753	4,500	▲253	▲5.3%
経常利益	4,869	4,500	▲369	▲7.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	4,116	3,000	▲1,116	▲27.1%

■ 通期の見通し

・連結売上高は前年比3.8%減と微減にとどまるよう努める一方で、営業利益と経常利益はコスト抑制を継続するものの、売上高よりも前年比で高い減少率を予想。（新型コロナウイルスによる影響を考慮）

■ 下期に向けた取組み

【建設事業】

・受注については、民間投資の先行きが不透明ではあるものの、官庁工事の受注に注力。また、官民連携（PFI）についても提案書等の充実を図り受注確率を高めていく。加えて新工法・新製品等の設計営業を活発化させ、官庁工事、スポーツ工事等の受注拡大を図る。

工事については、上期は低調な生産性で収束したが、下期は昨年並み或いは昨年以上の生産性を確保できるものと予想。今後の受注やコロナ禍の影響等、懸念材料があるものの、手持ち工事も多いことから昨年以上の工事収益を確保すべく、各種施策を実行しながら生産性向上（出来高と利益）に努めていく。

【製造販売・環境事業等】

・上期同様、下期も既受注は堅調。ストレートアスファルトの価格変動に懸念はあるものの、繁忙期に大幅な価格上昇がなければ計画達成は可能とみる。

また、コロナ感染症予防および景気対策で各官庁の予算が取られる中、来期さらに有利な営業展開の実現に向け、当社製品・工法の積極的な営業展開を図っていく。

3

今後の展望

中期経営5力年計画(2017年4月~2022年3月)概要

CSR経営の実践(目指す姿)

- 東亜道路グループは長年培った技術力を背景に、独自性を発揮し、社会のニーズに応え安心・安全な社会の実現に貢献するため、従業員一人ひとりが日々の業務の中で、コンプライアンスを徹底し、社会の課題解決に貢献することが社会的責任と考えています。

計画期間

- 2017年4月~2022年3月(5年間)

位置付け

- 経営資源の「選択と集中」を進め、安定した収益基盤を確立する再構築期間
- 持続的な経営革新に取組み、安定企業グループを目指す

中期経営計画の目的

- 環境の変化に即応できる経営体質の構築
- 当社及びグループ企業間の経営資源の連携を強化し総合力を高める
- 実効的なコーポレートガバナンスの実現

中期経営5力年計画(2017年4月~2022年3月)理念

- 5年後を想定した場合、社会・経済環境は人口減少とともに大都市圏への人口の移動が顕著となることが想定されます。そこで社内体制を中長期的な視野に立ち経営資源配分の方向性を時代の変化に備え、スピード感をもって対応します。

今後5年間で実施する経営資源配分の方向性

■ 労働環境の改善(女性活用・高齢化対策・働き方改革)

将来の就労者不足を想定し、女性技術・技能職員が活躍できる労働環境を整備し、また高齢者が活躍できる場を拡大することにより、技術の伝承を確実に高い品質なものをつくり社会に貢献します。

■ 事業拠点の集約化(組織構造の簡素化)

我が国の社会経済環境は都市への集中が顕著となることが予想されます。そこで、環境の変化に即応するため大都市圏の市場を中核とする組織構造とし、組織行動は中核事業所を中心としたエリア化を図ります。

■ 営業エリアの拡大・即応できる施工体制の構築(組織行動の改革)

従来の拠点よりも広い範囲を事業エリアとし、支店(中核事業所)を中心に、営業所、製品工場、合材工場等が一体となって、戦略的かつ柔軟に活動できるようにします。

■ 工事・合材・製品・技術営業・グループ企業の販売網の共有化(営業力強化)

情報管理を共有化し、当社グループにおける営業力の強化を図ります。

■ 工事部門・合材部門・製品部門・技術部門の総合力が最大限に生かせる総合事務所の構築(組織構造の改革)

我が国は急速な高齢化と人口減少が進み、社会経済基盤は首都圏をはじめ大都市への集中が顕著となることが予想されます。そこで、環境の変化に即応するため工事部門・合材部門・製品部門の主要3部門を統合した総合事務所を開設し、業務の集約化による総合力を発揮して事業の拡大を図ります。

実効的なコーポレートガバナンスの適切な実践

- 過去において社会的信用を失った事態を反省し、東亜道路グループ全体として、すべてのステークホルダーに対し、透明性の高い経営を行い、円滑な関係を構築しながら、効率的で健全な経営を維持することにより企業価値の向上を目指します。

コンプライアンス経営の強化

- 東亜道路グループは、すべての役員及び従業員が企業倫理・コンプライアンスを実践するうえでの基本指針である「行動規範」に基づき、グループ全体で企業倫理の確立に向けた取り組みを推進してまいります。
- そのうえで、法令及び社会規範を遵守するとともに、多様な価値観、地域の文化・慣習を尊重し、企業が企業市民として事業活動を通じて社会に貢献し、人々から信頼される企業を目指します。

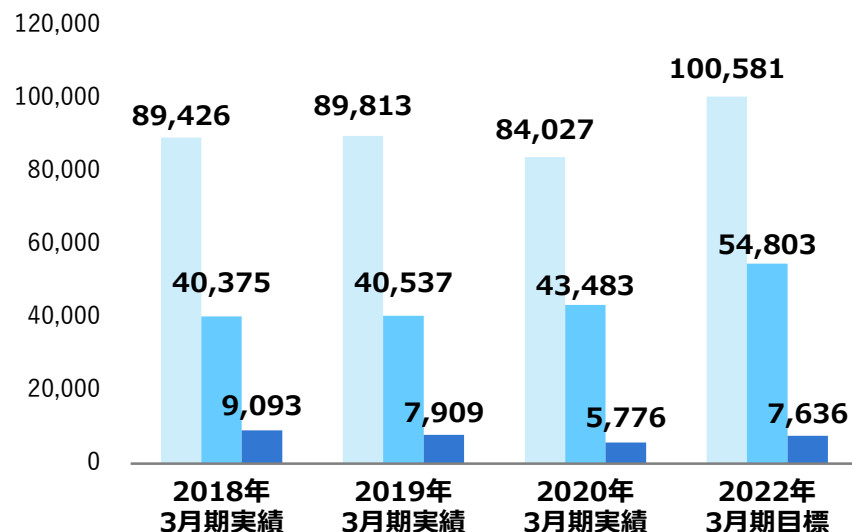
中期経営5力年計画(2017年4月~2022年3月) 数値目標

経営数値目標 [連結]

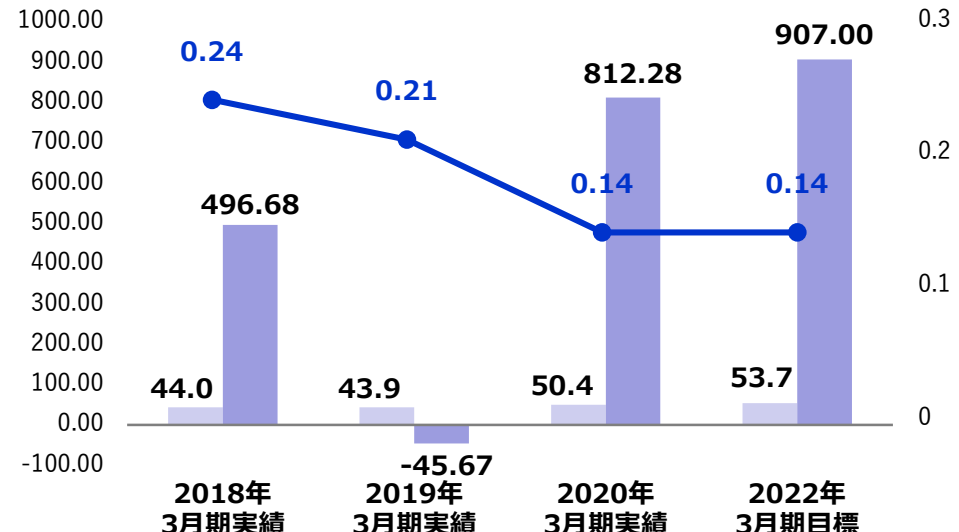
(単位：百万円)

	2018年 3月期実績	2019年 3月期実績	2020年 3月期実績	2021年 3月期目標	2022年 3月期目標
建設事業売上高	63,741	68,064	72,520		75,000
製造販売売上高	34,477	35,611	36,602		45,000
総売上高	98,218	103,676	109,123	105,000	120,000
営業利益	4,300	3,653	4,753	4,500	7,100
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,518	▲231	4,116	3,000	4,600

(単位：百万円) ■ 総資産 ■ 純資産 ■ 有利子負債



(単位：円、%) ■ 自己資本比率 ■ EPS (1株利益) ● D/E レシオ (単位：倍)



連結経営指標の推移

回次		第102期	第103期	第104期	第105期	第106期	第107期	第108期	第109期	第110期	第111期	第112期	第113期	第114期
決算年月		2008年 3月	2009年 3月	2010年 3月	2011年 3月	2012年 3月	2013年 3月	2014年 3月	2015年 3月	2016年 3月	2017年 3月	2018年 3月	2019年 3月	2020年 3月
売上高	(百万円)	107,928	105,968	104,514	91,230	103,156	105,991	118,848	113,663	96,586	99,849	98,218	103,676	109,123
経常利益又は経常損失(△)	(百万円)	2,429	1,404	5,873	2,124	2,330	4,298	6,711	6,016	5,412	5,260	4,184	3,728	4,869
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	(百万円)	1,916	417	2,761	848	1,853	2,724	4,121	4,110	3,139	2,987	2,518	▲231	4,116
包括利益	(百万円)	—	—	—	975	2,272	2,950	4,270	4,605	2,932	3,400	3,096	691	3,594
純資産額	(百万円)	14,946	15,550	18,353	19,090	21,394	24,495	28,108	32,740	35,008	37,897	40,375	40,537	43,483
総資産額	(百万円)	79,437	72,966	76,534	68,945	73,551	74,291	80,097	80,156	81,193	79,998	89,426	89,813	84,027
1株当たり純資産額	(円)	306.15	318.01	372.95	386.95	426.58	474.74	544.41	634.31	676.97	7,310.64	7,769.38	7,778.06	8,348.82
1株当たり当期純利益又は当期純損失(△)	(円)	39.79	8.62	56.91	17.47	38.12	54.92	81.20	81.00	61.89	589.02	496.68	▲45.67	812.28
自己資本比率	(%)	18.6	21.1	23.7	27.2	28.6	32.4	34.5	40.1	42.3	46.3	44.0	43.9	50.4
自己資本利益率	(%)	14.0	2.8	16.5	4.6	9.3	12.1	15.9	13.7	9.4	8.4	6.6	▲0.6	10.1
株価収益率	(倍)	2.79	14.50	3.04	11.10	6.53	6.23	5.04	4.99	6.06	5.65	8.17	—	3.69
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	▲999	3,384	7,468	1,139	4,340	4,217	1,875	3,284	10,266	1,297	10,959	3,262	▲3,734
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	▲547	339	▲625	▲919	▲1,246	▲1,172	▲1,834	▲1,294	▲2,579	▲1,905	▲779	▲3,250	▲1,752
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	▲2,361	▲3,501	▲4,031	▲1,385	▲1,532	▲2,008	▲2,460	▲1,912	▲2,435	▲1,031	▲910	▲1,890	▲2,878
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	7,324	7,546	10,324	9,159	10,720	11,757	9,338	9,415	14,667	13,027	22,298	20,419	12,053
従業員数(外、平均臨時雇用者数)	(名)	1,502 (547)	1,495 (513)	1,477 (506)	1,475 (495)	1,443 (492)	1,405 (519)	1,397 (534)	1,433 (533)	1,466 (495)	1,515 (456)	1,532 (497)	1,553 (531)	1,558 (516)

(注)1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 当社は、2017年10月1日付で株式併合(10株を1株に併合)を実施いたしました。第111期の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益を算定しております。

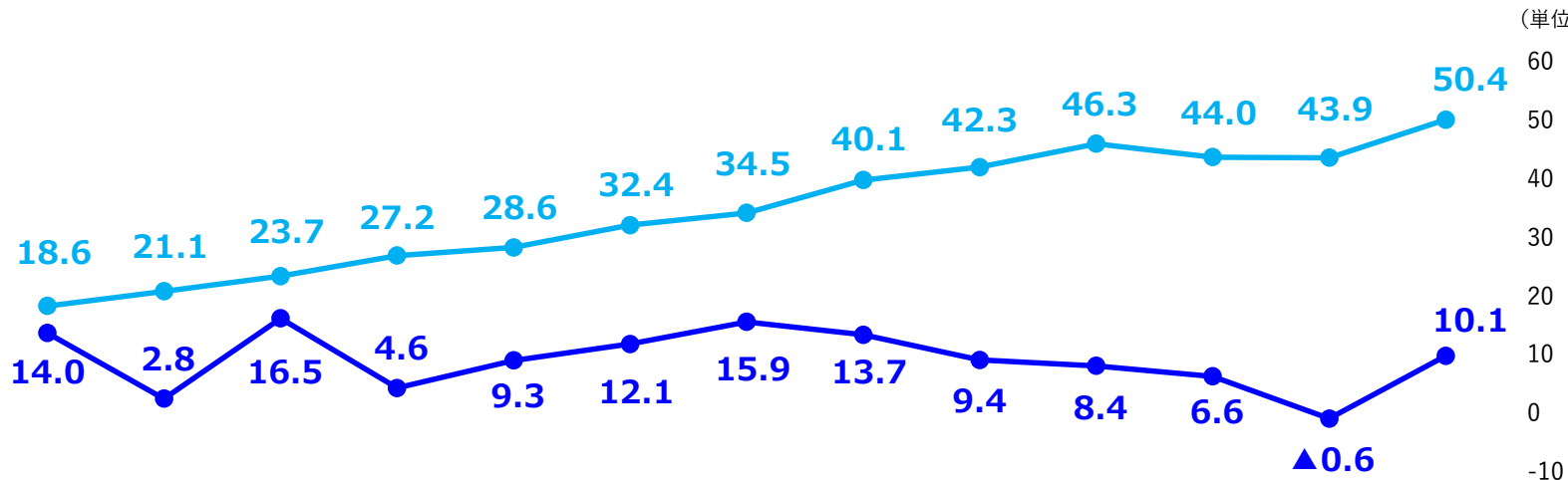
3 『税効果会計に係る会計基準』の一部改正(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第113期の期首から適用しており、第112期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を選定して適用した後の指標等となっております。

4 第113期の株価収益率は、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

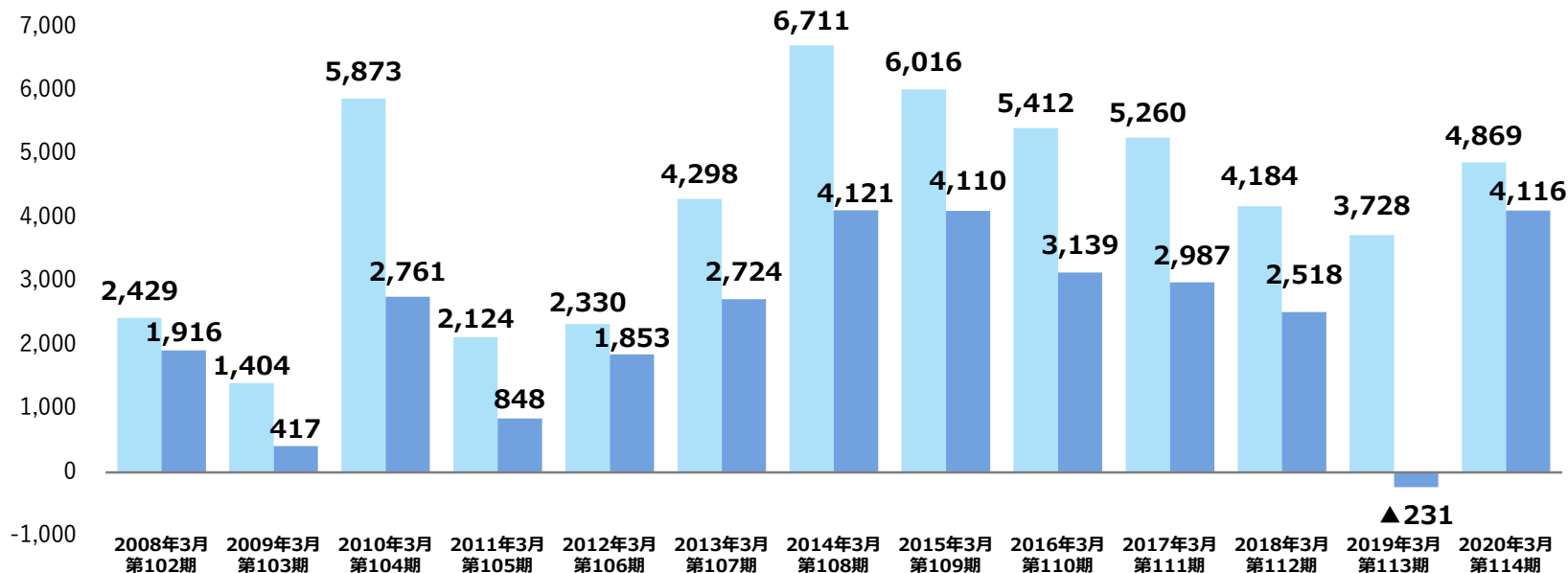
連結経営指標の推移

■ 経常利益
 ■ 当期純利益
 ● 自己資本比率
 ● 自己資本利益率

(単位：%)



(単位：百万円)



4

会社概要

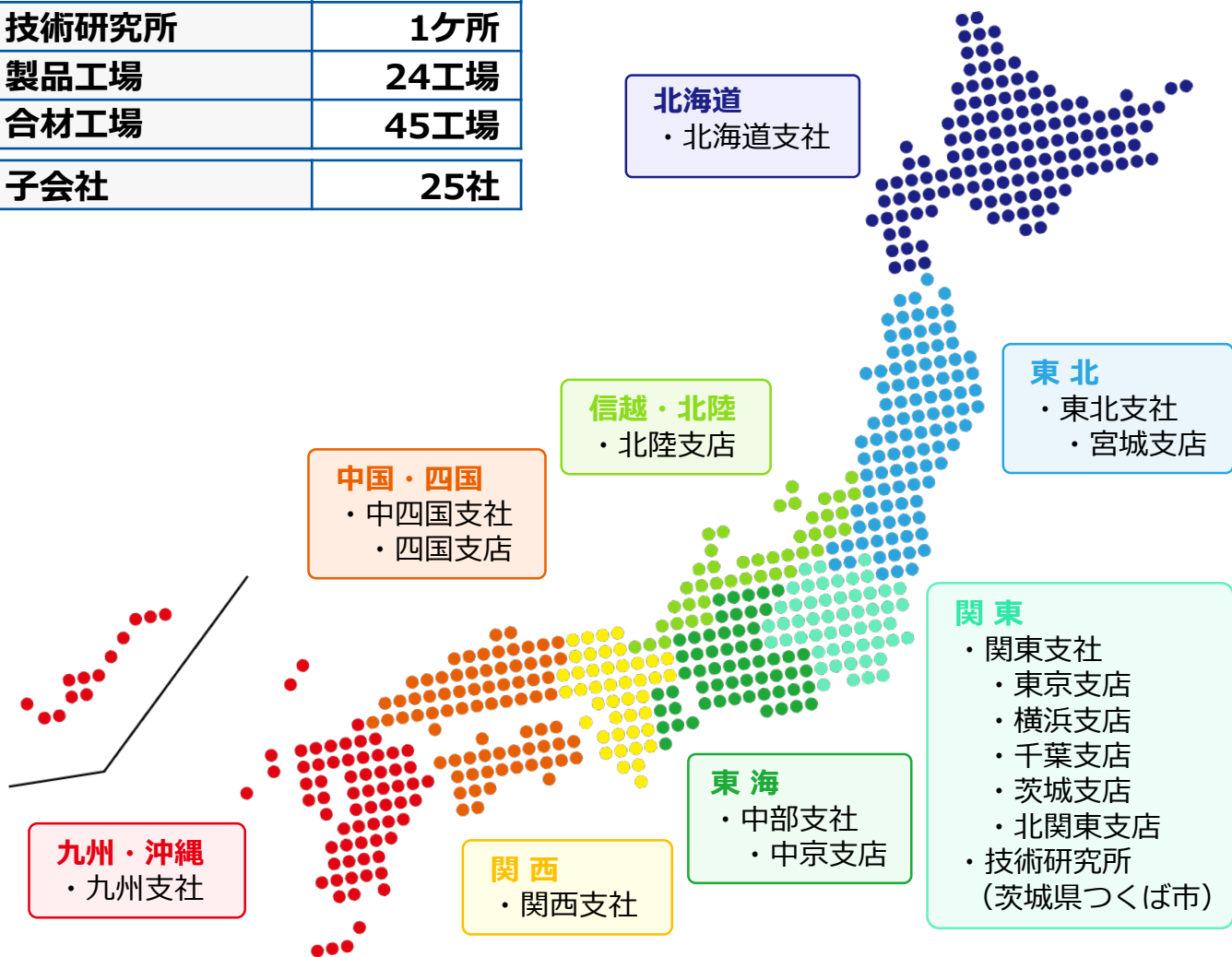
経営理念

これからの時代に尚一層価値のある
「真のサステイナブル企業」となるため、
お客様満足度を高め、人材・技術・企業力を磨く努力を
今後もたゆまず続けてまいります。

会社名	東亜道路工業株式会社
設立	1930年11月28日
本社所在地	東京都港区六本木七丁目3番7号
代表者名	取締役社長 森下 協一
資本金	75億84百万円（2020年3月31日現在）
売上高	1,091億23百万円（2020年3月期）（連結）
経常利益	48億69百万円（同上）（連結）
従業員数	1,558名（同上）（連結）
株式取引市場（証券コード）	東京証券取引所市場第一部（1882）
建設業許可	国土交通大臣（特-1）第3226号

主な事業所・研究所・連結子会社等

支店・営業所等	46営業所
技術研究所	1ヶ所
製品工場	24工場
合材工場	45工場
子会社	25社



本 社



技術研究所

国立競技場

【写真提供：大成建設株式会社】



JFA夢フィールド



駒澤大学野球場



東北大学サッカー場



千葉経済大学グラウンド



花園ウィルチェアスポーツ広場





HSバインダー

HSアスファルトは、半たわみ性アスファルトと同等の耐流動性を有し、交差点の手前や大型車駐車場に適用することで効果を発揮します。

HSバインダーは、HSアスファルト用に開発したプレミックスタイプの改質バインダーです。



EGカラー

EGカラーは、アスファルト舗装やコンクリート舗装を簡単にカラー化し、新しい舗装のように若返らすことができる塗料です。耐久性に優れ、ハイグリップで安全な路面を提供します。ローラバケなどを使い簡単に施工ができるため、誰でも簡単に施工が出来ます。



ファスト・アス

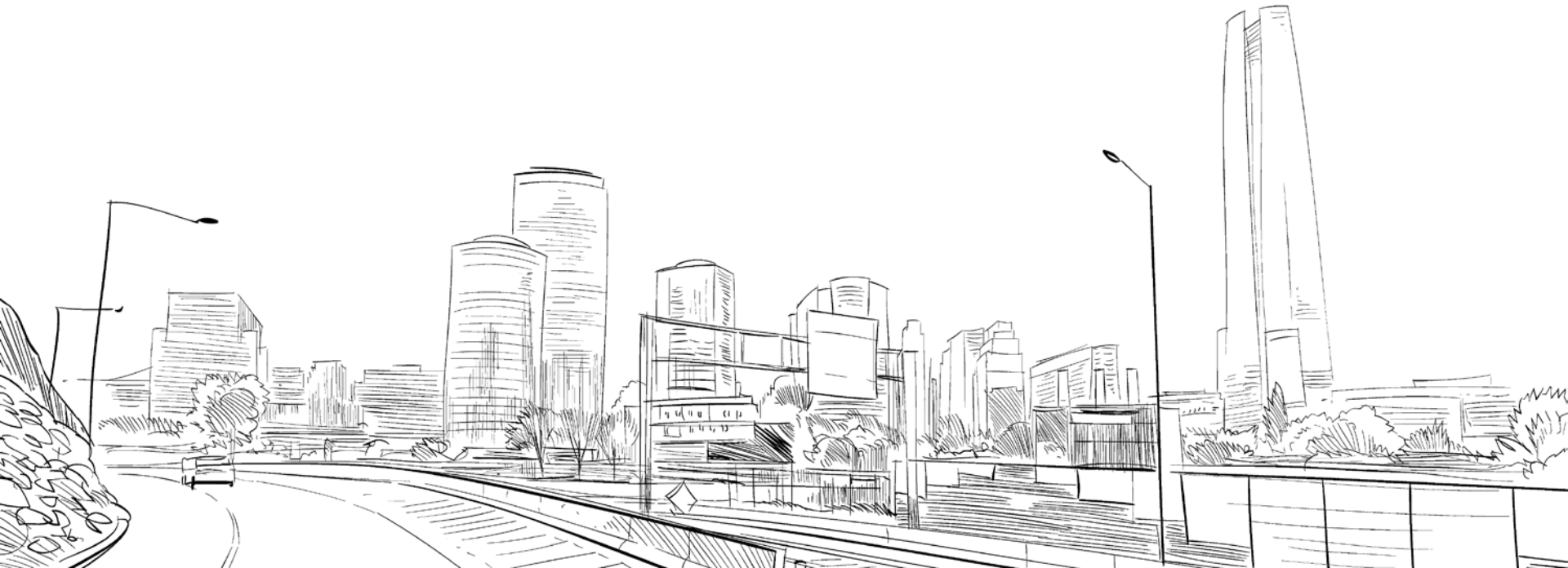
ファスト・アスは、使いやすさを追求した改質アスファルト乳剤系の小規模用常温硬化型路面補修材です。段差や継目などの修正、荒れた路面のリフレッシュや見た目の改善など、様々な用途に使うことができます。



TOKEパック

TOKE・パックは、常温合材を片手でも扱えるサイズに袋詰めした投げ込み式の全天候型ポットホール用緊急補修材料です。袋内の混合物はカットバック系アスファルト混合物であり耐久性が高く車両走行により徐々に均されることで、ポットホールの端部まで充填可能です。

本資料における予想、計画など将来に関する事項は、
現時点において入手可能な情報ならびに
当社が判断した前提および仮定に基づくものであり、
実際の業績は今後の事業環境の変化等、
様々な要因により異なる結果となる可能性があります。



お問い合わせ先

管理本部

TEL 03-3405-1811

FAX 03-3405-9800

URL <https://www.toadoro.co.jp>

